

久保地尾根遺跡

(第4・6次発掘調査)

平成8年度県営圃場整備事業原村西部
地区および県営担い手育成基盤整備事業
深山地区に先立つ緊急発掘調査報告書

974.3

1997.3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が久保地尾根道跡調査地点

序

このたび平成8年度に発掘調査を実施した久保地尾根遺跡の報告書を刊行することとなりました。

八ヶ岳西麓の原村では、農業の合理化と生産性の向上を目的とした、圃場整備事業が進められているところであります。

発掘調査は、県営圃場整備事業原村西部地区と県営担い手育成基盤整備事業深山地区に先立ち、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から補助金交付を受けた原村教育委員会が2次にわたって実施したものであります。

久保地尾根遺跡は、縄文時代中期の住居址が発見されている集落遺跡であります。この度の調査では、幸いにも遺跡の中心部から外れていたため、破壊された範囲は最小限にとどまりました。

今回の調査にあたり、諏訪地方事務所土地改良課の方々の御配慮、長野県教育委員会の御指導ならびに発掘にかかわる多くの皆様の御協力に深甚なる謝意を表する次第であります。

また、発掘報告書刊行にいたる課程において、お世話いただいた関係各位にたいして厚くお礼申し上げます。

平成9年3月

原村教育委員会

教育長 大 館 宏

例 言

- 1 本報告は「平成8年度県営園場整備事業原村西部地区」および「平成8年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区」に先立って実施した、長野県諏訪郡原村室内に所在する久保地尾根遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から発掘調査費補助金交付をうけた原村教育委員会は、第4次発掘調査を平成8年4月25日から5月15日、第6次発掘調査を12月10日から24日にかけて実施した。整理作業は、平成8年12月25日から平成9年2月13日まで行なった。
- 3 遺構の実測と記録、写真撮影は平出一治と平林とし美が行なった。
- 4 執筆は、平出一治・平林とし美が話し合いのもとに行なった。
- 5 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。
なお、本調査関係の資料には、57の原村遺跡番号を表記した。
発掘調査から報告書作成にわたって、原明芳・武藤雄六の両氏に御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

目 次

例 言

目 次

I 発掘調査に至る経過	1
II 発掘調査の経過	2
III 遺跡の位置と環境	3
IV グリッド設定と調査方法	5
V 土 層	8
VI 遺構と遺物	9
VII ま と め	10
引用参考文献	
発掘調査団名簿	
報告書抄録	

I 発掘調査に至る経過

農村地域はどこでも同じであろうが、後継者がいないことから高齢化は進んでいる。しかし、労力が少なくなることはない、したがって、機械化を望む声が強まるばかりである。その機械力を増すためには、まず農地と農道の整備が必要となってくる。それが原村における圃場整備事業で、平成8年度には、県営圃場整備事業原村西部地区・県営担い手育成基盤整備事業深山地区および県営担い手育成基盤整備事業弘沢地区の3事業が施工された。

久保地尾根遺跡は柏木・菑淵沢・室内の3地区に跨って計画されている「県営圃場整備事業原村西部地区」内に位置し、当地方において最も遺跡が密集している地域にあり、国の史跡である阿久遺跡をはじめ大小様々な遺跡が点在している。その保護については原村役場農林課と協議を続けてきたが、平成4年9月8日に長野県教育委員会の「県営圃場整備事業原村西部地区にかかる埋蔵文化財の保護について」で具体的な協議をはじめている。当初は平成7年度工事施工を考えた協議を進めていたが、原村教育委員会の調査体制では、家前尾根と中尾根の2遺跡だけで手一杯であることから、平成6年6月20日に行なわれた「平成7年度県営圃場整備事業原村西部地区にかかわる埋蔵文化財保護協議」で平成8年度調査との方向付けが行われた。

その後も協議を重ねてきたが、平成8年1月30日に原村役場および現地で行なわれた長野県教育委員会の「平成8年度県営圃場整備事業原村西部地区にかかわる埋蔵文化財保護協議」で、遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいが、はじめにも記したように農業者の強い要望があり「記録保存やむなき」との考えに落ち着き、緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。出席者は長野県教育委員会文化課、諏訪地方事務所土地改良課、原村役場農林課、原村教育委員会の4者である。この調査を便宜上第4次発掘調査と呼ぶことにした。

平成8年9月に入り、第4次発掘調査地点に隣接する1,100㎡を平成8年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区の土取り場にする計画が示され、10月8日と11月11日に原村役場および現地で行なわれた長野県教育委員会の「平成8年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区にかかわる埋蔵文化財保護協議」で協議され、遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいが、深山地区は礫が多く農地の将来のためには耕作土は必要なことであり、事業地域外の遺跡破壊は痛手であるが、緊急発掘調査を実施し記録保存をはかる方向で同意をみることができた。出席者は長野県教育委員会文化財保護課、諏訪地方事務所土地改良課、原村役場農林課、原村教育委員会の4者である。この調査を第6次発掘調査と呼ぶことにした。なお、第5次調査の報告が抜けているが、村道改良工事に先立つ発掘調査であるため、別報告を予定している。

原村教育委員会は、国庫および県費から発掘調査補助金交付をうけ、また、諏訪地方事務所から緊急発掘調査の委託をうけ、第4次調査は平成8年4月25日から5月15日、第6次調査は12月10日から24日にわたって実施した。

II 発掘調査の経過

第4次発掘調査

- 平成8年4月25日 発掘準備をはじめ。原村役場農林課、地元委員会、原村教育委員会の3者で予定地区の界確認を行う。
- 5月2日 機材の搬入を行い、基準杭の設定を行う。
- 7日 教育長挨拶の後、引き続き機材の搬入、テントの設営を行う。グリッド設定を行いC地区からグリッド発掘をはじめが、遺物の発見はない。遺跡の範囲および遺構の埋没状況を確認するため、重機によるトレンチ発掘を並行して行うが、遺構を確認するまでには至らない。
- 8日 引き続きグリッド発掘、重機によるトレンチ発掘とトレンチ内の精査を行う
- 9日 重機によるトレンチ発掘とトレンチ内の精査を行う。
- 10日 重機によるトレンチ発掘とトレンチ内の精査を行う。
- 13日 グリッド発掘、重機によるトレンチ発掘とトレンチ内の精査を行う。70ライントレンチ(CB-70)から黒曜石が出土するが、遺構を確認するまでには至らない。
- 14日 グリッド発掘、重機によるトレンチ発掘とトレンチ内の精査を行い、片付けをはじめ。
- 15日 グリッド発掘、重機によるトレンチ発掘とトレンチ内の精査を行い、機材の撤収を行い調査を終了する。

第6次発掘調査

- 平成8年12月10日 発掘準備をはじめ。
- 17日 重機によるトレンチ発掘をはじめが、遺物の発見はない。
- 18日 盛り土および木の根を移動し、重機によるトレンチ発掘を行う。水成岩の剥片を採集する。
- 19日 引き続き重機によるトレンチ発掘とトレンチ内の精査を行うが、遺物の発見はないし、遺構を確認するまでには至らない。
- 20日 重機によるトレンチ発掘とトレンチ内の精査を行ない、19ライントレンチ(AV-18・19、AW-18・19)で小竪穴を検出し精査を行なう。掘込みは浅い上に遺物の伴出がないため帰属時期は不明である。
- 24日 引き続きトレンチ内の精査を行なうが、遺物の発見はなく、遺構を確認するまでには至らないため、機材の撤収、水洗いを行い調査を終了する。

III 遺跡の位置と環境

久保地尾根遺跡（原村遺跡番号57）は、室内区の南方にあたる長野県諏訪郡原村11,458番地付近に位置し、県道弘沢・富士見線に接している。村の中心部に近いこともあって住宅建設など開発が進んできている。地目は、宅地、普通畑、水田、墓地、山林、道路、水路敷きと多種多様である。標高は980m（調査地点）前後を測る。

このあたりは八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く発達した大小様々な尾根がみられる。その一つである菖蒲沢川と阿久川にはさまれた尾根上から南斜面、先端部におよぶ広範囲が遺跡である。すでに、水田造成・宅地造成および道路建設によって削平された箇所は広範囲におよび、土器や石器が発見された話しを数多く聞くことができる。それらは同一遺跡でありながら調査者によって、久保地尾根遺跡・室内遺跡・菖蒲沢堰西遺跡および上村向尾根遺跡等に別称されたことにより混乱が生じてきていたこともあり、昭和54年度に長野県教育委員会が実施した「八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査」の折りに、遺跡名を「久保地尾根遺跡」に整理している。

調査地点は尾根の先端に位置するが、第3図に示したように第4次調査地点は2つに分かれた尾根と尾根の窪地にあたり、地目は水田で部分的に山林もある。水田造成は昭和30年代と聞いている。第6次調査地点は2つに分かれた両側の尾根上の狭い範囲となるが、地目は山林である。

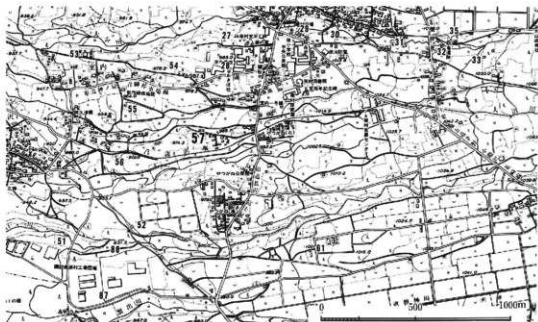


第1図 久保地尾根遺跡調査地区（第4次）と発掘風景（西から）

表1 久保地尾根遺跡と付近の遺跡一覧

○は遺物発見 ◎は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文			弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前中後							
27	關 廬 沢				○				○			昭和62年度発掘調査
28	宮 平									○		
29	向 尾 根				○					○		昭和50・54年度発掘調査
30	南 尾 根				○							
31	中 尾 根				○							
32	大 横 道 上				◎	◎						昭和42・51年度発掘調査
33	ワ ナ				◎							
35	臥 龍				◎	◎				○		村史跡 昭和33・35・36・45・57・平成3・7年度発掘調査
51	蛇 ケ 原				○	◎						昭和63・平成元年度発掘調査
52	水 掛 平				○				○			平成7・8年度発掘調査
53	雁 頭 沢				◎				○			昭和54・57・63・平成4・5年度発掘調査
54	宮 ノ 下		○		○				○	○		昭和57・58年度発掘調査
55	中 尾 根				◎	◎			◎	○		平成7年度発掘調査
56	家 前 尾 根		○		◎	◎			◎	○		昭和51年一部破壊、平成7年度発掘
57	久保地尾根				◎							昭和51年一部破壊、平成6・7・8年度発掘調査
61	番 飼 場				○							昭和50年消滅
87	下 原 山 南		○		◎				○			昭和63・平成元年度発掘調査
88	下 原 山 北		○		◎	○			○			昭和63・平成元年度発掘調査



第2図 久保地尾根遺跡の位置と付近の遺跡 (1:20,000)

なお、第4次と第6次調査地点は接している。

第6次調査のやせ尾根は、西に行くにしたがい尾根幅は広くなり、平成7年度に発掘調査を実施した家前尾根遺跡（原村遺跡番号56）で、縄文時代の住居址10軒（前期9、中期1）、縄文時代の小竪穴39基（滯属時期不詳も便宜上ここに含めた）。平安時代の住居址6軒、近世の墓壇1基を発見している。

付近には家前尾根遺跡以外にも数多い遺跡が点在し、第2図と表1に示したように、当地方における遺跡密集地帯で、旧石器時代・縄文時代および平安時代の遺跡が数多く埋蔵されている。なお、原村における遺跡の高度限界は1,200m前後のラインである。

これより西は、約2,500m先でホッッサマグナの西縁である糸糸川一静岡構造線の新層崖に沿って北へ流れる宮川によって断ち切られる。

本遺跡における発掘調査は6次を数えるが、蓋石を有する埋蔵が昭和25年4月に発見され、宮坂英次氏が「長野県埋蔵文化財包蔵地調査カード」に記録を残してある調査を便宜上第1次調査と呼んでいる。昭和50年頃に宅地造成、51年には村道改良工事で遺跡の一部が破壊されている。住居址が発見されたようであるが発掘調査が実施されなかったこともあり記録は残されていない。その後、原村教育委員会は平成6年度に住宅建設に先立ち第2次発掘調査を実施し、縄文時代中期後葉の曾利Ⅱ期の住居址1軒を発見している。平成7年度には第3次発掘調査、平成8年度には第5次発掘調査を村道改良事業に先立ち実施し、中期後葉の曾利Ⅱ期の住居址2軒と小竪穴11基を発見している。小竪穴の中には滯属時期の不明のものもある。

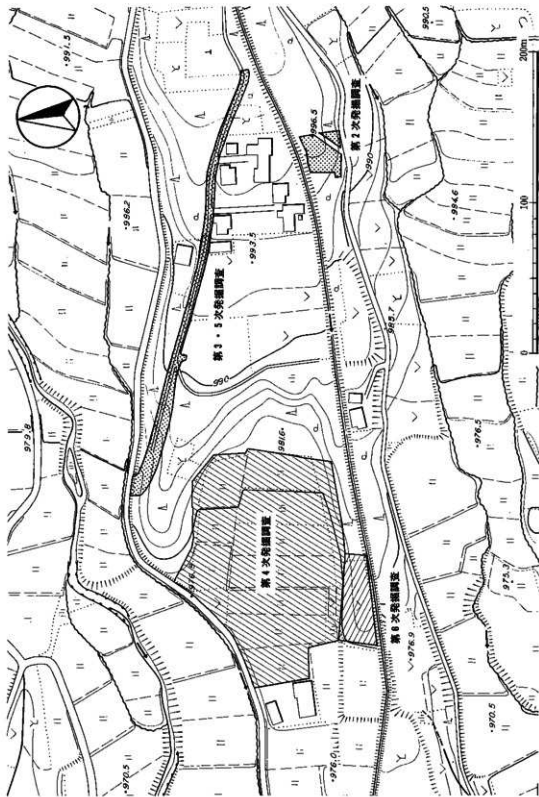
IV グリッド設定と調査方法

発掘調査の対象は第3図に示したように、第4次調査は平成8年度県営園場整備事業原村西部地区、また、第6次調査は県営担い手育成基盤整備事業深山地区の土取りにかかる地域である。

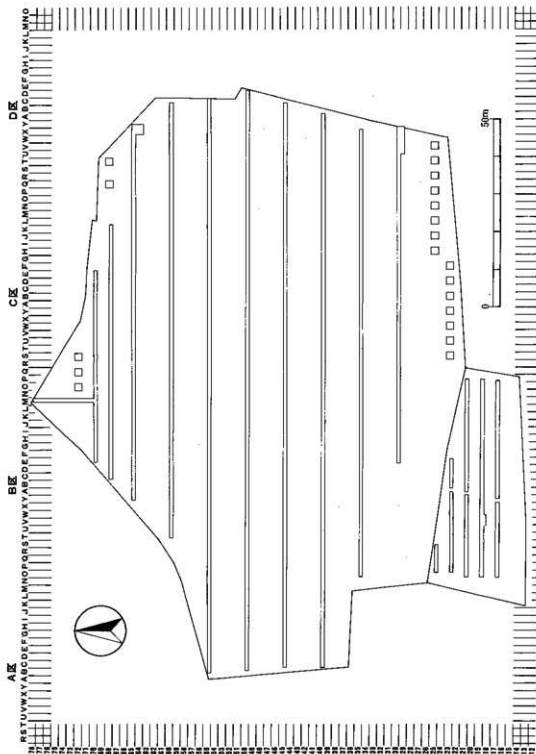
発掘に先だち第4図のとおり、東西南北（磁北）に軸を合わせたグリッドを設定し、第4次発掘調査は終了したが、その後、第6次発掘調査は計画された上に、調査対象地区が隣接していたこともあり、調査グリッドは第4次調査グリッドを延長した。したがって、第6次発掘調査グリッドは第4次発掘調査グリッドと軸は同じである。

東西方向には50mの大地区を設け、園場整備の予定地を西からA区・B区・C区・D区というようにアルファベットを用いて地区割りをした。大地区の中をさらに2×2mの小地区（グリッド）に分割し、東西方向は西からA～Yのごとく区分した。南北方向には算用数字をふつが、遺跡の中心と思われるラインを50とし、そのラインを基準に南方は49・48・47というように南にいくにしたがい小さくなるように、北方は51・52・53と大きくなるように振分けた。

個々のグリッドの呼びかたは、たとえば第4図右下（南東隅）の2×2mの発掘グリッドで見ると、大地区はC区であり、小地区の東西方向はVラインにあたり、南北方向は25ラインで、そ



第3圖 久保地居住遺跡発掘調査区域図・地形図 (1:2,500)



第4区 久保地区相違誌グリッド配置図 (1:1,000)

れは「V-25」となる。したがって小地区の前に大地区を表記した「CV-25」となる。

準備期間中に数回におよぶ踏査を行ない調査方法を検討したが、遺跡の範囲を明確にできないまま、発掘調査を進めることになったため、まずグリッド発掘と重機を使用したトレンチ調査を併用し、範囲を確定することからはじめた。

トレンチは東西方向、南北方向ともグリッドの軸に合わせ、トレンチの幅は重機のバケット幅である 1.2～1.3m である。調査は原則として層別に行ないローム層上面ないしは礫出土面までとした。

第4次発掘調査は、グリッド発掘と重機によるトレンチ掘り、トレンチ内の精査を並行して行ない、黒曜石を1点発見しただけで遺構を検出するまでには至らなかった。調査面積は 1,496㎡ である。

第6次発掘調査は、重機によるトレンチ掘り、トレンチ内の精査を行い遺構の検出に努め、小竪穴1基を発見調査したが伴出遺物はない。調査面積は 231㎡ である。

なお、第4次と第6次の発掘調査では調査密度に違いがある。「III 遺跡の位置と環境」で述べたが、第4次調査地点は尾根と尾根に挟まれた窪地で、当地方の縄文時代の遺跡立地とはやや違っていたが、第6次調査地点は尾根上であり適した立地と思えたため、調査トレンチを密にしたためのちがいである。

測量は、予め設定した 2 m 四方のグリッドを基準とするやり方方式による。

V 土 層

調査地区の土層は、大きく分けて尾根上、北斜面、低地で違いがみられた。尾根上は比較的安定していたが、北斜面は土の流出が容易に考えられる状態で、不安定なグリッドの方が多い。低地は昭和30年代に水田造成されたとのことであり、攪乱の著しい個所もみられたし、すでに地山のローム層が削平されている個所がある上に、握り拳大からそれより大きな礫が多量に出土した。当地方において、この礫層中に遺構が構築されていることはないようである。

本遺跡の層序は地点によって違いがみられたが、CF-23グリッド壁面の観察結果をおおまかに記しておきたい。

CF-23グリッド

第I層	黒色土層	腐食土・表土層で4cm。
第II層	黒褐色土層	12cm。
第III層	黄褐色土層	いわゆるローム漸移層で26cm。
第IV層	黄褐色土層	ソフトローム層 14cm。

VI 遺構と遺物

調査の結果、第4次調査で黒曜石の剥片1点、第6次発掘調査で時期不詳の小竪穴1基と水成岩の剥片1点を発見したにすぎないが、若干の説明を加えてみたい。

1 遺 構

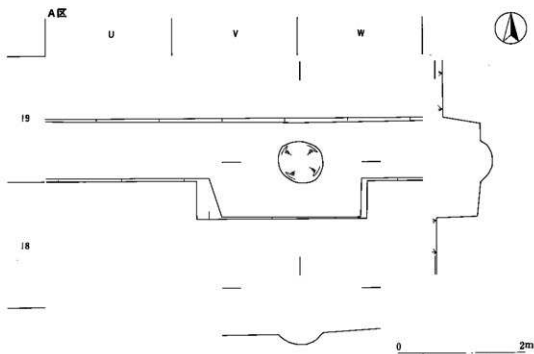
小竪穴12 (第5図)

尾根上の19ライントレンチ(AV-18・19、AW-18・19グリッド)で検出調査した。平面形は74×56cmの楕円形で、埋土は褐色土で自然埋没であった。壁の立上りはなだらかで、深さは18cmと浅く、底面は舟底状となる。

遺物の発見は皆無で、帰属時期および性格などは一切不明である。

2 遺 物

発見した遺物は、図示しなかったが黒曜石の剥片1点と水成岩の剥片1点がある。年代の指標となる土器の発見はなかったが、縄文時代に帰属するものと考えてさしつかえなからう。



第5図 久保地尾根遺跡小竪穴12実測図 (1:600)

VII ま と め

本遺跡は、「Ⅲ 遺跡の位置と環境」で述べたとおり、昭和25年に埋没が発見されていること。昭和51年の道路改良工事で地層の断面で住居址の落込みを認めていること。第2次発掘調査で縄文時代中期の住居址1軒を発見したことなどからみて、極めて良好な集落遺跡であることは容易に考えられることであり、少なからず期待するなかで調査を実施した。しかし、発見した資料は極めて少ないものであった。この事実が久保地尾根遺跡における本調査地点の性格を物語っていることになろう。

住居址が発見された地点は、本調査地点より東へ250m程寄っている。そのあたりが集落の中心と考えられ、住居址は全て縄文時代中期後葉の曾利Ⅱ期である。発見された土器をみると中期初頭の九兵衛尾根式から中葉の井戸尻式のものがあり、未だ集落のあり方はわからないているが、本調査地点は、集落址の外縁部にあたることは容易に想像できるものである。

限られた範囲の調査であったが、結果は時期不詳の小竪穴1基、黒曜石と水成岩の剥片1点だけの発見に終わったが、遺跡外縁部における性格の一端を窺うことができたものと思っている。

最後に、関係者各位ならびに発掘調査にたずさわった方々に厚くお礼申し上げる次第である。

引用参考文献

- 1955.11 諏訪史談会『諏訪史蹟要項9 原村篇』
1970.09 太田敬弐「諏訪郡原村室内の台付土器」(『縄』1)
1974.07 諏訪清陵高等学校地歴部考古班「原村の考古学的調査 上」(『土』8)
1980.03 長野県教育委員会『昭和54年度 八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書』
1985.07 原村役場『原村誌 上巻』
1995.03 原村教育委員会『久保地尾根遺跡 住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書』

久保地尾根遺跡発掘調査団名簿

第4次発掘調査

団 長 大館 宏 (原村教育委員会教育長)

調査担当者 平出 一治

調 査 員 平林とし美

調査参加者 発掘作業 清水 正進 小池 英男 小松 弘 坂本ちづる
宮坂とし子 五味八代江 清水 太助 西沢 寛人
中村きみゑ 小林 ミサ 清水としみ 長林ときわ
小林 多美 林 史子

整理作業 津金喜美子 進藤 郁代 (順不同)

第 6 次発掘調査

団 長 大館 宏 (原村教育委員会教育長)

調査担当者 平出 一治

調 査 員 平林とし美

調査参加者 発掘作業 清水 俊男 伏見 文枝

事 務 局 原村教育委員会事務局 大館 宏 (教育長) 中村 正英 (教育次長)
大口美代子 (庶務係長) 伊藤 佳江 平出 一治 平林とし美
石川 美樹 澤谷 昌英

報 告 書 抄 録

ふりがな	くぼちおおいせき						
書 名	久保地尾根遺跡 (第 4・6 次発掘調査)						
副 書 名	平成 8 年度県営園場整備事業原村西部地区および県営担い手育成基盤整備事業深山地区に先立つ緊急発掘調査報告書						
巻 次							
シリーズ名	原村の埋蔵文化財						
シリーズ番号	4 2						
編 著 者 名	平出一治 平林とし美						
編 集 機 関	原村教育委員会						
所 在 地	〒391-01 長野県諏訪郡原村6549番地 1 Tel 0266-79-2111						
発行年月日	西暦 1997年03月						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村：遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
くぼちおおいせき 久保地尾根	長野県諏訪郡 原村室内	3637 57	35度 57分 20秒	138度 12分 50秒	第 4 次 19960425 ～ 19960515 第 6 次 19961210 ～ 19961224	1,496 231	平成 8 年度県 営園場整備事 業原村西部地 区 平成 8 年度県 営担い手育成 基盤整備事業 深山地区
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物		特 記 事 項	
久保地尾根	包蔵地	縄文時代 時期不詳	小堅穴 1基	黒曜石剥片	水成岩剥片		

原村の埋蔵文化財42

久保地尾根遺跡 (第4・6次発掘調査)

平成8年度県営圃場整備事業原村西部地区
(第4次) および県営担い手育成基盤整備事業
深山地区(第6次)に先立つ緊急発掘調査報告書

発行日 平成9年3月

発行 原村教育委員会
長野県諏訪郡原村

印刷 もえぎ企画書籍
長野県岡谷市御倉町2-21

TEL 0266-22-4892

